

やすらぎ

第28号

平成27年8月1日発行

岐阜市民病院 代表電話 058-251-1101 ホームページ <http://gmhosp.jp/>



理念

心にひびく医療の実践

基本方針

- ・患者さんの権利を尊重し、心温まる医療を行います。
- ・安全で信頼されるチーム医療を行います。
- ・地域の医療機関と連携し、患者さん中心の継続した医療を行います。
- ・地域の中核病院として、最新かつ高度な医療を提供できるよう努めます。
- ・職員が生き生きと働くことができる環境づくりに努めます。



新人スタッフによる入職の誓い

また、これらの報告データや将来人口推計をもとに本年四月から各都道府県において地域医療構想を策定するための議論が始まっています。地域医療構想とは、医療・介護を必要とする人口は都市と地方では異なるため、地域

団塊の世代が七十五歳以上となる二〇二五年（平成三十七年）には、約二千二百万人（全人口の約十八％）が七十五歳以上になると予測されており、急速な高齢化による今後の医療・介護の需要増加が大きな課題となっています。このことから国は、昨年六月に医療介護総合確保推進法を成立させ、医療法の改正を行いました。この医療法改正により、一般及び療養病床を有するすべての医療機関は、「どのような患者さんを診ているか」、「どのような施設・設備を持っているか」等を各都道府県へ報告することが義務化されました。報告内容については、都道府県のホームページに公開され、誰でも各医療機関の手術件数や放射線治療件数、保有している医療機器等の情報を見ることが出来ます。



市民病院の現状と地域医療構想

病院長 富田 栄一

今後も皆さんのご期待に心えられるよう、職員一同、初心に帰り日々の診療に取り組みとともに、地域医療の拠点病院として、より良い病院づくりに努めてまいります。

ことにふさわしい医療・介護のあり方を議論し、地域全体で治し、支える「地域完結型」の医療・介護を進めるための将来ビジョンです。患者さんの病状に見合った病床（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）の必要数、在宅医療、介護までを含めた人員配置と設備投資等の目指すべき医療・介護提供体制が検討されています。

さて、平成二十五年十二月に改築整備事業が完了し早いもので一年半が過ぎようとしております。さらなる医療環境の充実を図るべく本年度はHCU（ハイケアユニット）を八床整備いたします。従来からあるICU八床に加えて重症患者用のベッドを十六床とし容体が急変した患者さん等の受け入れに対応いたします。また、平成二十七年に入り新たに救急専門医と集中治療専門医の資格をそれぞれ一名ずつが取得しており、ハード・ソフト両面での重症患者診療体制の充実を図っております。

本年も四月に六十名以上の新しいスタッフが当病院に入職しました。新人スタッフ全員で手をつなぎ、患者さん中心の医療・看護の提供を誓い合いました。

ことにはふさわしい医療・介護のあり方を議論し、地域全体で治し、支える「地域完結型」の医療・介護を進めるための将来ビジョンです。患者さんの病状に見合った病床（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）の必要数、在宅医療、介護までを含めた人員配置と設備投資等の目指すべき医療・介護提供体制が検討されています。

さて、平成二十五年十二月に改築整備事業が完了し早いもので一年半が過ぎようとしております。さらなる医療環境の充実を図るべく本年度はHCU（ハイケアユニット）を八床整備いたします。従来からあるICU八床に加えて重症患者用のベッドを十六床とし容体が急変した患者さん等の受け入れに対応いたします。また、平成二十七年に入り新たに救急専門医と集中治療専門医の資格をそれぞれ一名ずつが取得しており、ハード・ソフト両面での重症患者診療体制の充実を図っております。

本年も四月に六十名以上の新しいスタッフが当病院に入職しました。新人スタッフ全員で手をつなぎ、患者さん中心の医療・看護の提供を誓い合いました。

今後も皆さんのご期待に心えられるよう、職員一同、初心に帰り日々の診療に取り組みとともに、地域医療の拠点病院として、より良い病院づくりに努めてまいります。

新任部長のご紹介

人工関節センター長 大塚 博巳



大塚 センター長

この度、四月一日から人工関節センターのセンター長として赴任しました。愛知医科大学にて約二十五年間、成人の股関節疾患を専門として診療に努め、代表的な所属学会は、日本整形外科学会会員、日本股関節学会評議員、日本人工関節学会評議員です。

人工関節センターは、副センター長 森敦幸（膝関節）、山本孝敏（股関節）と大塚の専門医三名で構成され、整形外科医の協力を得て診療にあたっております。

現在の日本では高齢者でも活動的な生活を送り、さらなる健康維持のため積極的な運動をする方々が増えつつあります。しかし、同時に関節の痛みを引き起こす疾患でお悩みの方々も増えていると思われま。当センターでは、日常生活に非常に支障をきたした関節疾患、特に股関節や膝関節に問題を抱えている方々を診させて頂き、年齢、レントゲン像での関節破壊の状態、痛みの程度などを総合判断して、

股関節や膝関節の機能（痛みがなく、動き、身体を支えることが出来ること）を取り戻すために人工関節置換術を行っております。

当センターの人工関節手術は二十年以上の長期な耐久性が期待でき、五十歳前後の方から麻酔の進歩ともあいまって超高齢者にも行っています。

人工股関節の手術について

骨盤側にポリエチレン製のカップをセメント固定しますが、多くの場合には骨移植を併用して対処し、大腿骨側はステンレス製のポリッシュ・テーパーシステムというタイプをセメント固定します。これはセメント使用の中で世界で最も多く使われ、約四十年の長期使用ができることがわかっております。

更に先天性脱臼の股関節への手術、不具合のある人工関節の入れ替え手術なども積極的に行ってまいります。

膝関節の手術について（人工膝関節の手術について）

安定した膝の曲がり得られるPS型とよばれるタイプの機種を用いてセメント固定します。現状では人工膝関節術後の可動域にはどうしても限界があり、正座は難しいため、イスやベッドといったいわゆる西洋スタイル中心の生活に変えていただく必要があります。また、膝関節の変形が比較的軽度で片側だけに関節破壊がある場合に

は、変形した側だけを置換する単顆置換型人工膝関節や、ご自身の骨を温存して荷重の向きをかえることで膝の痛みを軽減する高位脛骨骨切り術なども行います。

股関節や膝関節でお悩みであればぜひご相談ください。

看護外来をご利用ください

看護部

近年、人口の高齢化、慢性疾患患者数の増加、在宅医療の推進等により、外来医療・看護も変化し、在宅療養への移行が進んでいます。それに伴い、患者さん・ご家族は療養上の課題を抱えたまま退院されることが多くなり、外来における医療・看護提供の必要性が高まっています。

在宅療養を支える上では、患者さん・ご家族のさまざまな生き方および価値観、仕事等の背景を視野に入れた総合的な対応でなければ、効果的な支援には繋がりません。患者さんのセルフケア能力を最大限に引き出し、主体的に自己決定ができるように、看護師は、的確な情報提供に努めることが求められます。

以上のような背景の下「看護外来」を開設する病院も増えています。当病

院は専門看護師と認定看護師がおり、認定看護師においては近隣病院と比較しても領域、人数共に多く在籍しています。専門的な能力を持った看護師が、主導的に看護ケアを行う「看護外来」では、個々の患者さんに必要な継続した看護を提供し、外来患者さんの療養生活支援を行うことは責務と考えています。

本年三月に患者さん・ご家族の療養生活上のQOL（生活の質）の向上及び、地域医療支援病院として地域への貢献を目指すことを目的に「看護外来」を開設しました。受診相談を希望される方は、主治医・看護師にご相談ください。





岐阜市休日急病センター・岐阜市休日急病歯科センターが平成二十四年十月に当病院内に開設され、岐阜市医師会、岐阜市歯科医師会、岐阜市薬剤師会の三師会が協力し運営を行っており、調剤薬局の薬剤師も当病院の薬剤部に入って調剤しております。

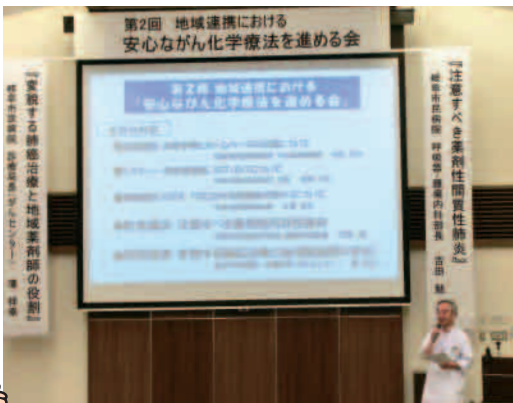
これを機に、外来でがん化学療法を受けられている患者さんへの関わりを薬局の薬剤師と一緒に考えたいと思い、「地域連携における安心ながん化学療法を進める会」を平成二十六年に発足しました。

抗がん剤の遅発性の副作用は自宅で起きます。その相談はかかりつけ薬局の薬剤師が最初であり、抗がん剤の副作用への対応方法、患者さんへの説明など、当病院と同じ説明を受けられれば患者さんも安心できるのではないかと考えました。抗がん剤の副作用は当病院の薬剤師が、治療の有用性・留意点は医師が説明し、この会を通して情報を共有するようにしております。また、当病院ホームページでは、患者さん用の抗がん剤の説明書が閲覧でき、

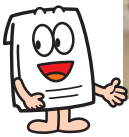
患者さんからも確認できるようにしております。

当病院から退院される患者さんには、退院調整会議がもたれます。この会議にも、かかりつけ薬局の薬剤師と当病院の薬剤師も参加するようにし、退院後の対応（内服薬の一包化、粉碎、注射の調製等）を話し合っております。今後、点滴治療を必要とされる患者さんが退院される場合、かかりつけ薬局の薬剤師が対応できるよう、今年四月から、注射薬の調製研修を始めております。

今後も当病院と調剤薬局が協力して患者さんのために何ができるかを考えていきます。



地域薬局との勉強会のようす



「もの忘れ外来」を始めました

神経内科 里見 和夫

高齢化社会を迎えて、もの忘れを自覚する方が多くなっています。その多くは年齢相応の自然なものの忘れですが、ひよっとすると認知症の始まりではないかと、不安に思われる方もいらっしゃるでしょう。そんな人のために「もの忘れ外来」を始めました。あなたのもの忘れが、自然なものなのか、病的なものなのかを診断し、病的なものなら、早めに適切な治療をアドバイスいたします。

はじめに

認知症の診療は、地域の保健・福祉・介護・医療機関と連携を取ることが大切であると考えています。このため、当病院の「もの忘れ外来」にかかる時は、「かかりつけ医」の紹介状をお持ちください。

診察、検査について

認知機能検査

- 一、長谷川式簡易知能評価スケール等を用いて、記憶、言語、注意、意欲等、脳の様々な働きを検査します。
- 二、心理テストを行い、心の状態もチェックします。

脳画像検査

- 一、MRIやCTで、脳の萎縮、脳梗塞、脳出血などを調べます。
- 二、SPECT（脳血流検査）で、脳が活発に働いているかどうかを調べます。

血液検査

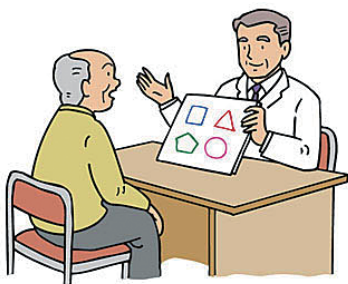
脳の働きに影響するホルモン、ビタミン、内臓の病気などについて血液検査を行います。

治療について

主に薬物療法、生活指導、福祉相談を実施しております。

予約受付

診察は電話による事前予約制です。月から金曜日（休祝日を除く）午後二時から午後四時までの間にお電話にて予約してください



「もの忘れ外来」

予約電話番号 058-251-1101
内線2220

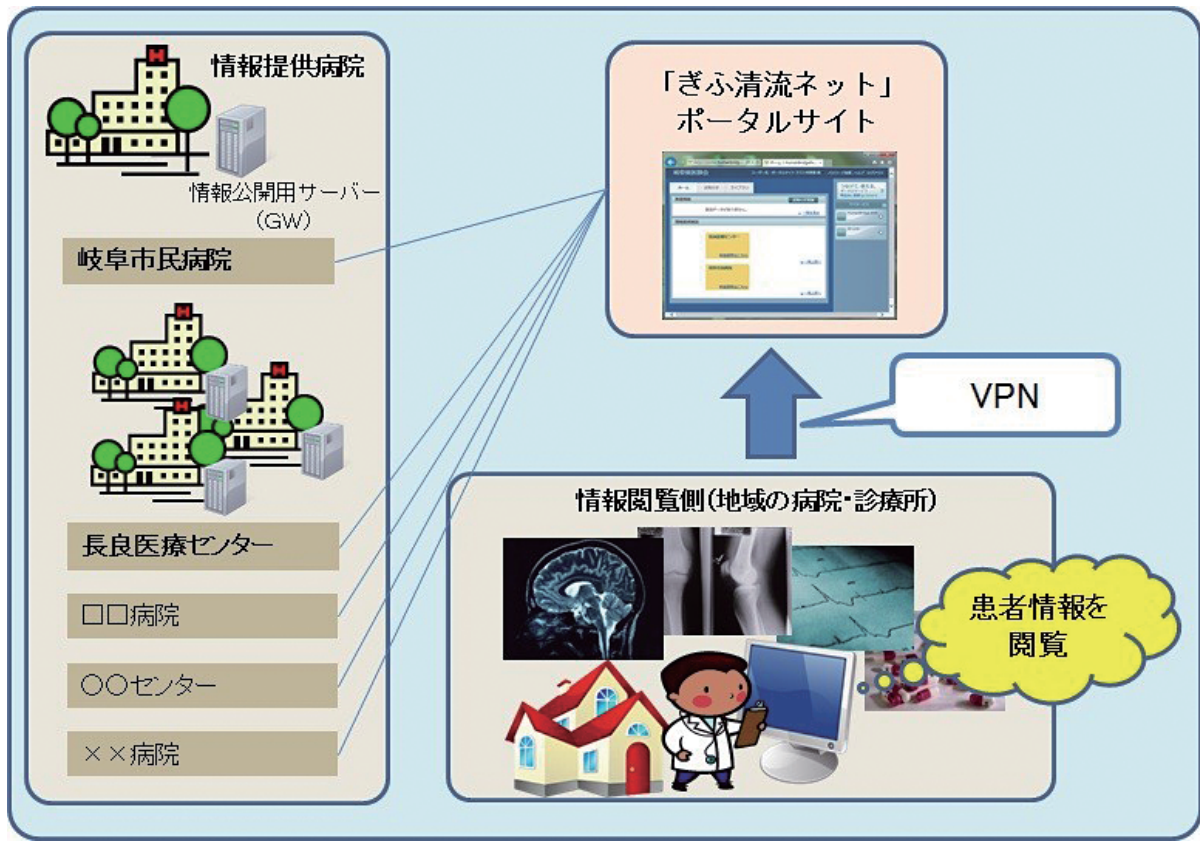
ぎふ清流ネットのご案内

当病院は、岐阜県地域医療連携ネットワーク協議会が運営している「ぎふ清流ネット」に参加しています。このネットワークは、患者さんの同意後、各医療機関に保管されている診療情報を、セキュリテイで守られた回線で、かかりつけ医と共有することにより、患者さんの診療に役立てるためのネットワークです。診察や検査などから得られた多くの診療情報を元に、安全で質の高い医療を提供します。

例えば、病院（情報提供施設）の受診時の状況や治療歴、検査データなどが、かかりつけ医側で閲覧できるようになり、治療の経過やその効果などの説明を的確に受けることができます。また、重複した薬の処方や検査を防ぐなど、医療費の節減にもつながります。もちろん、利用にあたって患者さんの費用負担はありません。また、患者さんの診療情報を守るための様々なセキュリテイ対策を講じています。共有をやめたい場合は、患者さんの意思でいつでも中止することができます。

当病院は、平成十八年度に県内初の地域医療支援病院の承認を受け、かかりつけ医等の医療機関と連携・機能分担を推進してきました。これからも患者さんが良質な医療サービスを利用性よく受けられる体制づくりに努めてまいります。

ぎふ清流ネットでの診療情報共有イメージ




編集後記

読者のみなさん「やすらぎ」第28号が完成しました。本号では、市民病院の現状と地域医療構想、新任部長のご紹介、看護外来のご案内、地域での薬・薬連携について、もの忘れ外来のご案内、ぎふ清流ネットのご案内について掲載いたしました。

その他に、現在、岐阜商工会議所の「月報」に当病院の医師が健康情報を毎月提供しております。機会がありましたら、一度ご覧ください。

編集部一同



外来診療のご案内

- 診療科目・・・内科、糖尿病・内分泌内科、精神科、神経内科、呼吸器・腫瘍内科、消化器内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、歯科、歯科口腔外科
- 休診日
土・日・祝日と12月29日～1月3日
*詳細はホームページでも紹介しています。
市民病院ホームページ <http://gmhosp.jp/>

